



発行・カトリック水巻教会  
 編集・広報委員会  
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
 〒807-0025  
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
 第298号

## 復活したイエス様をどのような時に感じます 広報・岩本

毎年春になると私たちキリスト教徒は、主の復活の喜びの日を迎えます。

しかし、復活されたイエス様はどこにおられるのでしょうか。そのように考えたことはありませんか。

イエス様が十字架の上で殺されたとき、弟子たちは全員逃げてしまいました。ところがマグダラのマリアたちは、翌朝に墓を見に行っています。

その時代には虐げられていた女性たちは逃げなかったのです。何故でしょうか。昨年の教区信徒協研修会で森司教は、「**虐げられていた女性は、男性よりもキリストの福音を理解していた**」と言われました。

聖書の中で人数を数える時は男性の人数しか書いてないことを見ても女性の地位がどれほど低いかが分かります。

イエス様が十字架上で亡くなったとき、男たちは家の中に籠もっていました。そこへイエス様は復活して現れたのです。(ヨハネ20章19節～)

そのようなことがあって初めて弟子たちはイエス様が復活すると言われたことを理解しました。しかし、虐げられていた女性たちは早くからイエス様の言葉を理解していたのです。

そのときイエス様は「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マ

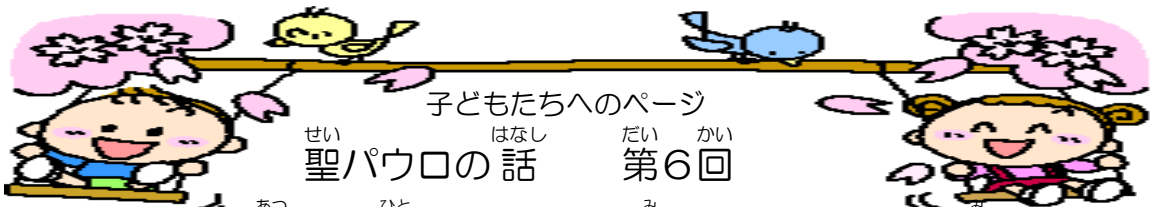
タイ28章20節)と言われました。それから弟子たちは福音を伝えるために外に出て行くことになりました。

私たちは社会の中で、働いています。働くという考えにはいろいろあると思います。会社に行って働くこともあれば、自治会などの役員として地域のために働くこともあります。ボランティアなどの奉仕もあるでしょう。

人びとに奉仕するには、机の上だけで考えていてはできません。自分の体を動かし、いろいろな人と接して初めて働きができます。いろいろな考え方の違う人と討論をし、工夫をするとき新たな展開も生まれます。

イエス様はエルサレムからエマオへ向かっていた二人の旅人の前に現れました。イエス様はいつも私たちのところに現れるという話ですが、そのような経験はありませんか。イエス様は、小さな人のために働く人の前へ、必ず現れると思うのです。

子ども達のページ	2面
共同体での働き方	3面
委員会報告	4面
典礼委員会議事録・聖書への案内	5面
宣教をする人のための講演会	6・7面
教会学校のページ	7面
おしらせ	8面



## 子どもたちへのページ

 せい はなし だい かい  
 聖パウロの話 第6回

アンティオキアに集まった人たちは、熱心にキリストの福音を伝えましたので信者が増えていきました。そこでリーダーだったバルナバはパウロを探しにタルソに行きアンティオキアに連れて帰りました。

パウロは一年間、その教会にいて多くの人を教えました。このアンティオキアで弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになりました。(使徒言行録11章25節)

わたしたちキリスト教の信者は、キリスト教徒と呼ばれますが、それはこの時から呼ばれるようになったのです。

アンティオキアの人たちが断食して神に祈っていると聖霊が告げました。

「さあバルナバとサウロ(パウロ)を選び出なさい。わたしが前もって2人に決めておいた仕事に当たらせるために」(使徒言行録13章2節)

聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、キプロス島に向けて船出しました。これがパウロの第1回の宣教旅行の始まりです。この旅からパウロは聖書の中でもサウロという名前からパウロという名前で書かれるようになります。

キプロス島ではユダヤ人の魔術師と対決します。魔術師はパウロに負けて目

が見えなくなります。これを見たキプロス島の地方総督は主の教えに非常に驚き信仰に入りました。

その後、2人は船に乗ってベルゲという町に上陸して旅を続け、ピシディアのアンティオキアに入りました。

安息日に会堂に入って席に着きました。そこで会堂長がパウロに「何か会衆のために励ましのお言葉があれば話してください」頼みましたので、パウロは会堂に集まった人たちにキリストの福音を話しました。

この時のパウロの話は長いので、いつか聖書を読んでみて下さい。使徒言行録13章16節～41節です。

パウロの話をお聴きください。異邦人がキリストの福音を信じましたが、それを見たユダヤ人がパウロに反対してその地方から追い出してしまいました。そのため2人はイコニオンに行きました。

この時にパウロが話をした会堂の跡は今も残っています。ここに行くと遺跡の入り口に「チャーチ・オブ・パウロ」パウロの教会と英語で書いた矢印の標識があります。世界中からパウロが話をした聖書の場所を見に来る人がいるのです。

## 共同体での働き方

2月、聖堂後ろの掲示板に水巻教会の諸活動に参加をお願いする掲示が張り出されていました。神父様も呼びかけをされましたからお気づきになったと思います。ただ、心ある方でも掲示板への記入は事情を聞くことも出来ず、書きづらかったかもしれません。

思えば教会内のいろいろな活動や仕事に自主参加をして、小さなグループを作ったのはもう20年くらい前のことだったような気がします。みんな若かったのです。当時の熟年は今や後期高齢者になられた方もおられます。いつまでも20年前の体制で水巻共同体を支えていくには限界があります。たとえば、「ふれあい会」はミサの後に冬は暖かい飲み物を、夏は冷たい麦茶などのサービスをしています。日曜の朝8時くらいから準備をされます。80歳前後の方々が黙々と働いて下さっていますが、人数が増えれば隔週にしたり交代して、安心して休んでいただくことができます。

「お花を生ける会」は土曜日に聖堂のお花を生けたり、納骨堂や信徒会館の玄関、トイレなどに花を入れて下さっています。最近は西鉄バスの路線廃止が相次ぎ、芦屋、折尾、中間などから通って来られる方々には大変不便になったと聞きます。そうした事情で、「お花の会」は、メンバーが一時期2人となって一人の都合が悪いと、たった一人で花を生けておられるのだそうです。こんな状況を見過ぎて良いものでしょうか。せめて、あと2人欲しい、といっておられます。本当は8人くらいでローテーションを組むことが出来ればとも言うておられます。

人手不足といえば、慢性的にオルガン奏者の問題があります。典礼によって様々な選曲があるので、全部を弾きこなすことが出来なくても少しずつ手伝ってもらえると助かるようです。ただ、それには周囲の温かい見守りが必要です。ただでさえ緊張する伴奏をとやかに批判されては、だれでもやる気を失います。

やってみようかな、と思って下さる方を育てる気持ちを皆が保ちたいものです。

マザーテレサは、「一番素晴らしいことを神さまのために」といっておられました。自分と自分の家族のために主日ミサにあずかるだけではなく、もっと水巻共同体にかかわる信仰生活に切り替えることはできないでしょうか。「ひとりが出来ることをみんなのために」を思い出しましょう。

赤間地区 矢田公美



# 委員会等報告

2012年3月分

## 3月度小教区委員会 3月4日

### 1. 前委員会の議事録確認

- ①各委員会予算案について  
予算提案は特になかった
- ②アクショングループのメンバー呼びかけ  
1名のみ記入。他は無し。
- ③総会 5月20日実施
- ④聖堂屋根の点検…来年度実施予定

### 2. 先月の行事報告(抜粋で記述)

- ・1月29日(日)北村神学生 送別会
- ・2月19日(日)幼児洗礼式
- ・2月22日(水)灰の水曜日

### 3. 議題

- ①2012 年度信徒総会 行事計画案について(特に議題にあがったもののみ掲載)  
7月 教会学校 練成会  
近くなって、日時の決定を行う  
11月4日(日) 堅信式、司教様公式訪問  
この日に小教区親睦の日を行う。  
※本来ならば、来年度は巡礼旅行の年だが、司教様公式訪問や堅信式もあり、実施が難しいので、来年度も小教区親睦の日を実施の方向。

11月11日(日) 小教区死者追悼式

- ②下水道工事に関して  
田中税さんが手配をして頂いている。  
2社から見積もりを取って検討業者をほぼ決定。  
工事期間：7月末から8月初め  
幼稚園夏休み中の実施  
工事にかかる費用

「聖堂・信徒会館」部分 約50万円  
「幼稚園・司祭館」部分 約146万円  
後者は幼稚園と教会が半分ずつ払う  
教会の支払い分は、約123万円程度。  
教会会計(営繕積立金)から支払う予定。

- ③地区集会について
  - ・来年度の地区委員について
  - ・総会前に、教会についての意見交換
- 3月18日 芦屋、梅の木
- 3月25日 海老津、折尾、吉田
- 4月1日 高須、中間、赤間、遠賀

### 4. 各委員会

典礼委員会より

- ・黙想の家の神父様が新しくなられるので、研修会を計画する予定あり。
- ・聖歌の練習…8月に行う予定

### 5. その他

- ・納骨堂委員の副委員長を作ってほしい。委員長一人では、対応できないこともあるので。  
→納骨堂利用者集会のときに、納骨堂利用者の方にお願ひする。

### 6. これからの活動

- 4月1日(日) 枝の主日
- 4月7日(土)復活の徹夜祭 洗礼者なし
- 4月8日(日)復活の主日 初聖体3名  
復活祭以降、新神学生が派遣される。
- 4月15日(日)小教区委員会
- 4月15日(日)信徒協聖書講座
- 4月22日(日)納骨堂利用者集会

## 2011年度 第9回 典礼委員会議事録

開催日時：2012年3月14日(水)19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、松尾定五、浜口、山本、俵、安永仙、矢田

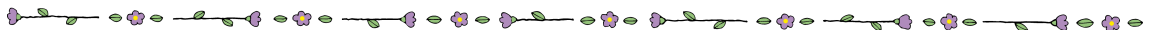
## 《報告事項》

1. 北九州信徒協典礼部会の各教会活動報告書を回覧中  
次回典礼部会開催予定 6月24日(日)14:30 小倉教会
2. 「十字架の道行き」9:10よりミサ司会者の先唱で3月25日まで実施
3. 枝の主日のためのソテツ採集(岩本氏宅)3月25日
4. 復活の主日(4月8日)に初聖体3名
5. 4月15日又は22日より神学生1名が司牧実習のために水巻教会に派遣される予定。
6. 典礼聖歌研修会 8月19日(深堀 純氏)の予定(4月中旬に再確認)
7. 今後の予定 ●5月20日 主の昇天・水巻教会信徒総会  
●5月27日 聖霊降臨 ●11月4日 堅信式、司教公式訪問

## 《審議事項》

1. 聖週間の歌 練習予定 4月1日
2. 「聖週間の典礼B年」の内容(別紙原案)を了承。聖週間の分担を聖堂掲示板に貼付。
3. ミサ司会予定表に5月から秋好理絵さん経験者同伴で参入の予定。
4. 典礼委員会主催の典礼研修会については、次回提案(時期と内容)
5. 4月の典礼委員会は、日程調整が出来ないためお休み。

教区の日 11月23日 次回予定 2012年5月9日(第2水曜日) 19:30



## 聖書への案内 No.25

## ガラテヤの信徒への手紙

ガラテヤはトルコの中央部のアナトリア高原北部です。ここにパウロは第1回の宣教の旅でピシリアのアンティオキアを訪れています。

ここには今も広大な町の遺跡があり、山のほうから水を町に供給する水道橋も残っています。遺跡の中にはパウロが話をした(使徒13章13節～)会堂跡も残っています。

この手紙を読むと、この頃パウロは、昔からの律法を守らせようとするユダヤ人の人たちと論争をしているのではないかと思います。

「信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまえない」3章7節

「律法の実行に頼る者はだれでも、呪われています。『律法の書に書かれているすべての事を絶えず守らない人は皆、呪われている』と書いてあるからです」3章10節

このころの律法は莫大な量であり、誰も完全に守ることができない状態になっていました。そこでパウロは次のように律法を一言で結論づけています。「律法全体は『隣人を自分のように愛しなさい』という一句によって全うされるからです」5章14節

「宣教をする人のための講演会」  
宣教スナック「エポペ」で活躍された進藤重光さんの講演会

2012年1月22日(日)黙想の家において、新宿歌舞伎町での宣教の地として知られたスナック「エポペ」(1980年-2011年)で、創設者ネラン神父と共にその運営・宣教活動をしてこられた進藤さんが、講演をされました。その講演の内容を報告します。

(広報・三谷)

＊進藤藤さんの経歴

オリエンズ宗教研究所へ在籍すると共に、NGO/ human integrated network として、ルワンダ難民支援の第2次隊の団長として支援した。

＊ネラン神父の経歴

士官として職業軍人であったが司祭への道を歩んだ。フランスにあっては、敗戦国日本からの留学生を積極的に受け入れ、その中に遠藤周作さんもいました。宣教師として来日、最初は長崎に。その後、真生会館理事長、いわゆるネラン塾、大学講師などを務めたが、非常に厳しい教育者であった。

そのネラン神父が一転してサラリーマン相手のバーテンダーになりました。これがエポペの始まりでした。エポペは、同様なパブやスナック等が3000軒もひしめく新宿の中の1店で、NPO法人として立ち上げました。

カウンターには日本人スタッフと留学生スタッフを置いて話し相手になりました。特別な活動としてミニコンサート、誕生会、PV(パブリック・ビューイング)などが行われました。ここでは危ない信仰の再教育の役目も果たしました。当時はNPO,NGOの言葉が有名でない時代でしたが、ここでクリスマス会もありました。

エポペは美しい冒険と言えます。司祭がバーテンダーになり、サラリーマンに宣教するのです。ここでよく語られた問答があります。

Q：神父やクリスチャンの人たちが店をやっている意味は何ですか？

A：国籍・社会的な立場を超え、出会いの場、友情の場、よい知らせ(福音)に触れる場所を作ることです。これは聖句「いつも喜んでいなさい」「み言葉を述べ伝えなさい」に基づきます。

＊エポペでは「裏の目的」こそ大切なものでした。

- ・誰でも、誰とでも、何時でも、気軽に傾聴すること(会社や家族の悩みや愚痴を聞く)しかし、説教はしない。
- ・相談を受けて医療や法律の専門家へ紹介をする。
- ・女性一人でも来ることができる友情の場、出会いの場とする。 (7面下へ続く)





# 教会学校のページ



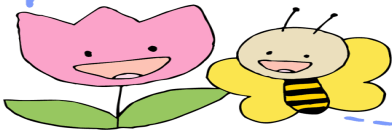
## 初聖体クラス

2月26日

- 1 5つの祈り
- 2 復習 「ゆるしのひせき」19, 20, 21, 23

3月11日

- 1 5つの祈り
- 2 「ごせいたい」28, 29, 30, 31, 32
- 3 はつせいたいの日のいのりをしました。



## 3~6年生クラス

2月26日

- 1 聖歌の練習をしました。
- 2 友だちにできること(してあげられること)を絵と言葉で考えました。

※3月11日は、大人の黙想会のため、3~6年生クラスはありませんでした



(6面から続き)

- ・ネットワークを作る(異業種交流、仕事の相談)
- ・宗教間対話・エキュメニカル活動等々。

店には、マスターとスタッフ、女子パウロ会のスタッフ、留学生スタッフ、女性スタッフがいました。留学生スタッフは、韓国、ベトナム、イスラエル、スペイン、フランスなどでした。

ミニコンサートや、集会、降誕祭ミサ、Christmasパーティーなどもありました。

# 4月のおしらせ

## ★聖週間のお知らせ★

1日(日)(受難の主日) 9時30分より  
 5日(木)(聖木曜日) 19時30分より  
 6日(金)(聖金曜日) 19時30分より  
 7日(土)(復活徹夜祭) 19時30分より  
 8日(日)(復活の主日) 10時より  
 ミサ中に初聖体式があります。

## ★納骨堂利用者集会★

日 時：4月22日(日)ミサ後  
 場 所：聖堂

水巻教会の納骨堂を利用している方々の集まりを行いますので、関係のある方は、ご参加ください。

## ★堅信クラスの勉強会★

堅信クラスの勉強家が始まります。忘れないように参加してください。

第1回目 4月22日(日)

その後、毎月第2・4日曜日のミサ後に行います。

## ★直方教会建設基金協力募金★

3月11日 50,000円

黙想会の指導をしてくださった、寺浜亮司神父様のいらっしゃる直方教会を新しく建設するということで、皆様から建設基金協力募金をしていただきました。ご協力ありがとうございました。



今月の聖人

25日

聖マルコ福音記者

1世紀

マルコは、キリストの時代にユダヤに生まれました。マルコの家は広がったので、使徒や信者たちの集會に使用されていました。このときのマルコはまだ若く、後になってペトロから洗礼を受けたと思われます。

初代教会の偉大な人物バルナバのいとこで、バルナバとともにパウロの旅にも同伴し、ローマではパウロの、次にペトロの協力者として働きました。パウロの手紙にはマルコの名前が幾度も出ています。またマルコは、ペトロの説教集を集めて福音書を書きました。

67年、ローマ皇帝ネロの迫害でパウロとペトロが殉教した後、彼はエジプトのアレキサンドリアへ行き、最初の司教となり、そこで殉教したと伝えられています。後年、その遺骸がヴェニスに運ばれ、市民の保護者となりました。墓の上には大聖堂が建てられ、現在も美しい教会として有名です。

